

1 自転車の利用に関する意識調査（市民アンケート）の概要

【1】アンケートの実施状況

1. アンケートの調査対象

- ・那珂市に居住する 15 歳以上 70 歳未満の方を対象に 1,000 人を無作為に抽出
- ※ただし、調査票については、2 部ずつ（2 名分）送付し、ご家族の記入も可とした

2. 実施期間

- ・令和元年 11 月 29 日（金）～ 令和元年 12 月 16 日（月）

3. アンケートの回収状況

	回収数	配布数	回収率
封書数	262	1,000	26.2%
アンケート返信数	416	2,000	20.8%

【2】アンケートの調査結果の概要

1. 回答者の基本属性

- ・回答者の年齢は、「60 代」が最も多く、次いで「40 代」「50 代」が多く、中高年層での関心が高い。
- ・回答者の免許の有無では、「自動車」の免許を持つ人は 8～9 割で、何も「持っていない」人は 1 割程度。

2. 自転車所有の状況

- ・「自分用の自転車を持っている」人は約 4 割で、「家族で使用」する自転車がある人を含めると 7 割以上が自転車を所有している。 所有の 7 割が「シティサイクル（ママチャリ等）」。
- ・自転車を持っている人で、自転車保険に「加入している」は 4 割弱。「知っているが加入していない」が 4 割弱、「加入する予定はない」が約 1.5 割となっており、事故に備えた加入の促進が必要。

3. 日常的な生活圏

- ・平日の主な行動圏は、「自宅周辺」等を含む那珂市内が約半数、「水戸市」が 2 割、「ひたちなか市」が 1 割。主な目的は「仕事」が半数以上。
- ・土日祝日の主な行動圏は、「自宅周辺」等を含む那珂市内が約 6 割、「水戸市」が 2 割、「ひたちなか市」が 1 割。一方、主な目的は「買い物」が 6 割以上。
- ・平日の交通手段は「自分で運転する車」が 7 割を超え、土日祝日の交通手段は、「自分で運転する車」が 6.5 割、「家族が運転する車」が約 2 割。「自転車」は平日、土日祝日ともに約 8 % と少ない。

4. 自転車利用の状況

【自転車利用の状況】

- ・自転車利用頻度（自転車所有者）は、「ほとんど乗らない」が6割、週1回以上の頻度で乗る人は約2割で、たまに利用する人が多い。
- ・自転車を利用する理由は、「健康的だから」が2.5割で最も多い。「その他」には、回覧板等「車に乗るほどではない用事」に利用するなど。
- ・自転車を利用する範囲は「1 km 以内」又は「1～2 km 以内」で約6割、移動時間（往復）は全体の半数以上は30分以内の移動で、多くの人が近距離の移動に活用。

【自転車の安全対策】

- ・自転車所有者で「安全対策をしている」が3割、全体の半数以上は「安全対策をしていない」。安全対策の必要性への理解が課題。
- ・具体的な安全対策は「反射器具をつける」が7割で最も多く、「ヘルメットを着用する」は2割。
- ・「自転車安全利用五則」は「知っているが内容は理解していない」又は「知らない」が約6割で、周知徹底が必要。
- ・自転車に乗っている時や自転車との間での危険な経験が「ある」が半数以上。具体的には、「車道を走っている時の車の追い越し」が3割。
- ・自転車に乗っている人をみて「危険だな」と思うことが「ある」が9割以上。具体的には、「携帯電話を操作しながらの運転」が5割。

5. 自転車利用に対する関心

- ・日常生活の中で自転車を利用してみようと「思う」が半数以上で、実際の利用率は低いものの、自転車利用に対する関心は比較的高い。理由は、「健康的だから」が7割以上。
- ・自転車を利用してみようと「思わない」人でも「安全な自転車空間ができれば利用する」が約3割。
- ・サイクリングをしたことは「ない」が6割。したことが「ある」は、「旅行に行った時に、レンタサイクルを利用した」「サイクリングコースとして設定されているコースに行く」ことが多く、観光や交流目的でのサイクリング普及に取り組む際には、気軽に利用できる環境づくりが重要。

6. 自転車利用の促進に必要な施策

- ・日常生活の中での自転車の利用促進に必要な施策では、「主要な道路に自転車の通行空間を確保」が7割弱、次いで「歩行者・自転車・自動車の通行空間を分離」、「滑りやすい路面や凹凸のある路面を改善」などが多い。
- ・観光や交流の面でサイクリングの振興に必要な施策では、「サイクリングコースの整備」が約7割、次いで「自転車通行帯（ブルーライン、矢羽根）の整備」、「サイクリングコースに関する情報発信の強化」、「サイクルサポートステーションの設置」などが多い。
- ・那珂市内で、安全対策を講じる必要がある場所では、「小中学校の周辺」が5割以上で、「国道349号沿道」、「水郡線の駅周辺」、「上菅谷下菅谷（旧道）周辺」などが多い。
- ・那珂市内や周辺で走ってみたい・紹介したい場所では、「久慈川沿岸」「那珂川沿岸」の河川敷、「静峰ふるさと公園周辺」、「笠松運動公園周辺」、「那珂総合公園周辺」、「県立植物園周辺」など。

【1】アンケートの実施状況

1. アンケートの調査対象

- ・那珂市内の高等学校2年生（県立水戸農業高等学校、県立那珂高等学校）を対象

2. 実施期間

- ・令和2年1月20日（月）～1月22日（水）

3. アンケートの回収状況

	回収数	配布数	回収率
那珂高等学校	139	161	86%
水戸農業高等学校	201	279	72%
合 計	340	440	77%

【2】アンケートの調査結果の概要

1. 回答者の基本属性

- ・回答者は、「市外」からの通学者が8割で、「水戸市」や「ひたちなか市」「常陸大宮市」が多い。
- ・回答者のバイクの運転免許は「持っていない」が約9割。

2. 自転車所有の状況

- ・「自分用の自転車を持っている」学生は約9割、「家族で使用」する自転車がある人を含めると9割以上が自転車を所有。所有の9割が「シティサイクル（ママチャリ等）」。
- ・「自転車保険に加入している」学生が7割いる一方で、「知っているが加入していない」「知らなかった」「加入する予定はない」が3割弱で、保険についての意識啓発が必要。

3. 日常的な生活圏

- ・平日（通学）の交通手段は「自転車」が6割を超え、「家族が運転する車」「鉄道」が3割ずつ。
- ・土日祝日の交通手段は、「自転車」が6割未満、「家族が運転する車」が4割。

4. 自転車利用の状況

【自転車利用の状況】

- ・自転車の利用は、「毎日」が5割、「週に3～4日程度」が2割で、利用頻度が高い。

- ・自転車での通学時間（片道）は、「(30分～) 1時間以内」が2.5割、「1時間以上」が1割で、比較的通学時間の長い学生がいる。

【自転車の安全対策】

- ・自転車の走行位置は、「交互」が半数以上で、自転車の走行位置・方向の適切な誘導等が課題。
- ・「安全対策をしている」が4割、全体の6割は「安全対策をしていない」。行っている具体的な安全対策は、「反射器具をつける」が8割。「ヘルメットを着用する」は5%程度。
- ・「自転車安全利用五則」について、「知っているが内容は理解していない」又は「知らない」が約6割で、周知が課題。
- ・自転車に乗っている時や他の人が乗っている自転車との間での危険な経験があるが半数。具体的には、「道路の凸凹で転んだ」「自転車との接触」が多い。
- ・自転車で危険な行為をしたことがあるが3割程度と比較的少ない。具体的には、「横に並んで走る」が多く、「携帯電話を操作しながらの運転」は3割程度。
- ・市内で自転車通行が危険だと思う場所は、学校の周辺や通学路、後台駅周辺など。

※市民アンケートとの比較

	市民アンケート	高校生アンケート
自転車の所有状況	・所有者：7割以上	・所有者：9割以上
自転車保険の加入	・加入者：4割弱	・加入者：7割
日常の交通手段	・自転車利用者：8%	・平日の自転車利用：6割強
日常の生活圈	・市内への通勤など5～6割 ・市外：水戸市、ひたちなか等	・市内居住：2割弱 ・市外居住：8割（水戸市等）
利用頻度（※所有者）	・ほとんど乗らない：6割	・週3～4日以上：7割
利用時間（※所有者）	・短時間（往復30分以内）が多い	・長時間（片道30分以上）もいる
走行位置（※所有者）	—	・交互：5割以上
安全対策（※所有者）	・安全対策している：3割 ・ヘルメット着用：2割	・安全対策している：4割 ・ヘルメット着用：5%
自転車安全利用五則	・理解していない、知らない：6割	・理解していない、知らない：6割
自身の自転車乗車時又は他の自転車との間の危険	・危険な経験がある：半数以上 ・具体的には車の追い越し等	・危険な経験がある：半数 ・具体的には道路の凸凹で転んだ等
危険だと感じたこと （高校生：自身の危険行為）	・感じたことがある：9割以上 ・携帯電話の操作：5割	・危険行為をしたことがある：3割 ・携帯電話の操作：3割

- ・市民全体では自転車の所有は高いものの普段あまり利用していない人が多いが、高校生では自転車を持っていて、日常の通学に使用して市外から通う学生が多く、十分な配慮が必要。
- ・危険行為について、市民は危険と感じているものの、高校生は自分が危険行為をしているとあまり感じておらず、自覚していない可能性が考えられる。

3 小・中学生クイズの概要

【1】小・中学生クイズの実施状況

1. クイズの調査対象

- ・那珂市内中学校（5校）の第8学年全生徒、那珂市内小学校（9校）の第5学年全児童
- ・各校に協力を頂き、調査票（クイズ形式）を児童・生徒に直接配付及び回収

2. 実施日

- ・令和2年1月15日（水）～22日（水）の間で、各校において適宜実施

3. クイズの回収状況

	学校数	対象者数	回収数	回収率
小学校	9校	440	436	99.1%
中学校	5校	416	375	90.1%

【2】小・中学生クイズの調査結果の概要

番号	質問	正解	小学校 正答率	中学校 正答率
問1	歩道と車道の区別があるところでは、自転車は、原則、車道を走らなければならない。	○	75.0%	88.8%
問2	自転車は、車道の右側を走らなければならない。	×	70.2%	88.3%
問3	自転車で走る時は、信号機や道路標識にしたがわなければならない。	○	95.6%	97.6%
問4	やむなく自転車で歩道を走る場合は、歩道の真ん中を走らなければならない。	×	95.6%	99.2%
問5	夜でも明るいところを走る場合は、ライトを付けずに走ってもよい。	×	94.5%	96.8%
問6	友達など、ほかの人を自転車のうしろに乗せて走ってはいけない。	○	89.9%	93.6%
問7	小周りに自動車が走っていなければ、友達など、ほかの人と横にならんで走ってもよい。	×	95.6%	97.9%
問8	・小学生（13歳未満）は、自転車に乗る時にヘルメットを着用する必要がある。（小学校用） ・中学生以上であれば、自転車に乗る時にヘルメットを着用しなくてもよい。（中学校用）	○ ×	91.3%	77.9%
問9	小さい音なら、イヤホンをつけながら走ってもよい。	×	95.4%	97.1%
問10	雨が降っている時は、カサをさしながら走ってもよい。	×	96.6%	97.9%

○小学生対象クイズ結果

- ・走行位置（車道、歩道）に係る設問について、相対的に正答率が低い。

○中学生対象クイズ結果

- ・ヘルメットに係る設問について、相対的に正答率が低い。
- ・小学生と同様に、走行位置（車道、歩道）に係る設問についても、比較的正答率が低い。